



ふれあい広場

発行 健生会友の会事務局
 住所 〒635-0022 大和高田市日之出町 11-14
 ☎(0745)22-2989 [平日9:00~17:00]
 E-mail tomonokai@kenseikai-nara.jp
 (社医)健生会ホームページ
 https://kenseikai-nara.or.jp

土庫病院からのお知らせ



電話診療を行なっています

コロナの影響で、診察をためらっている方もおられるのではないのでしょうか。土庫病院では、定期的に受診されている患者様を対象に電話での診察を行ないます。

内科・大腸肛門科・消化器内科が対象です。受付時間内に「診察券」と「保険証」を準備して、お電話ください。

※「初診」、および「急性の症状」はお受けできません。
 ※病状によってはお電話での診察はお受け出来ない場合があります。

◇電話診察のご希望は ☎0745-53-5471

こども診療所からのお知らせ

●こども診療所ではオンライン診療を行なっています

※症状や病態によりお受け出来ない場合があります。詳しくは、こども診療所までお問い合わせください。

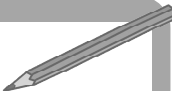
☎0745-23-1682

●夜診が変わります

7月より、火曜と木曜に変更になります。

※7/7(火)、8/4(火)、8/18(火)、9/8(火)の夜診は休診となります。

署名にご協力ください



私達が笑って暮らしているのは、世界が平和であってこそ。黒川検事長の定年延長問題でも明らかになりましたが、政府は国民の声を聞かず強行に法改正を行いかねません。憲法9条を守るためにも、国会で発議をすることを許さない署名にご協力をお願いします。

併せて、核兵器を禁止し廃絶する署名にもご協力いただき、同封の返信用封筒にてご返送ください。

コロナ自粛でお変わりありませんか

コロナの影響で体調や生活にお変わりがないか、お困りごとはないかなどをお聞きするため、お電話をしています。お便りでも皆さんのお声をお聞かせください。



つながり、支え合いの輪をもっと大きく

3月14日から延期していた定期総会ですが、今回はコロナによる臨時措置として開催を中止します。3月号でいただいたご意見を参考にしながら、皆さんとともに今後の活動をすすめていきたいと思ひます。

今号では方針(まとめ)、役員体制を掲載いたします。

2020・2021 年度方針まとめ

- 1、会員の健康づくり、地域からの健康づくり
 - ・まちかど健康チェックの継続、イベント要請にも積極的に応える
 - ・健康教室・班会・医療懇談会の開催を増やす
 - ・ヘルスチャレンジの参加者増。健康カレンダーの作成を継続
- 2、友の会の質的・量的発展、強化をめざす
 - ・「会員」2021年度10,600世帯到達、高田市世帯比率15%を目標
 - ・「いつでも元気」2021年度550部到達を目標
 - ・地域支部主体の活動を強化。地域に出る活動の重視。手配り率50%をめざす。掲示板の設置など、宣伝活動の強化
 - ・助け合い、支え合い活動の充実。子育て世代の交流・支援を重視
- 3、会員相互の親睦と交流
 - ・日帰り等の企画の充実、サークル発表交流会の開催
 - ・2021年健康まつりは5月30日に予定
- 4、安心して住みつづけるまちづくり
 - ・社会保障、平和に関する署名や集会等の取り組み
 - ・安全、安心な地域づくりの為に諸団体と共同し、行政に働きかけ
- 5、(社医)健生会との共同した取り組み
 - ・共同委員会や院所利用委員会を継続し、定期協議会を年1回開催
 - ・医師、看護師の確保、地域に密着した職員教育の協力
- 6、名称問題について継続して検討

<役員体制>

(敬称略、~~~~は新役員)

- ◆会長 松下 光人
- ◆副会長 今井 光子、太田 敦、高階 俊治、寺前 憲一、藤井 信雲
- ◆常任世話人 浅井 義久、飯尾 大彦、坂本 博道、西堀 五月子
- ◆世話人 浅野間 正、芦原 美紀子、池田 年夫、今村 秀之、尾崎 元枝、木村 けい子、黒木 隼子、河面 哲子、沢田 洋子、竹花 祥隆、竹森 衛、田部 千津子、所 進、仲尾 正信、中川 由子、中村 正樹、西堀 佐知子、馬場 前、東 充洋、肥後 恵、平岡 正広、福本 美代子、松村 光庸、南口 好英、向川 征秀、村上 誠子、森本 和央、山田 美津代
- ◆事務局長 木下 美和 ◆会計 藤井 潤
- ◆会計監査 中北 美知代、馬場 千恵子

スコop

コロナ禍で生まれて初めての「巣ごもり」生活。友の会の行事は中止、サークル活動なども休止。何とも言えない息苦しさを感ずる毎日でした。人との交流が減って、お酒と体重が増えました。

コロナ感染が世界中に広がる中、あらゆる国がコロナを共通の敵として、協力し合わなければならなくなりました。コロナや、温暖化といった地球的な危機の前では、自国の利益を優先することや、軍事力で優位に立つことに、何の意味もないように思います。いつも誰かを怒鳴っているトランプ大統領や、コロナを軽視するブラジル大統領は「NO!」と、言うかもしれません。

そして、もしも日本が欧米並みの爆発的感染に見舞われていたら、日本の医療は完全に崩壊していたでしょう。政府はこの事態を重く受け止め、医療費抑制のための病床削減計画を撤回すべきです。コロナは、病院や診療所、保健所などの体制を完全に整えておくことの重要性を痛いほど教えてくれました。

世界中の国々は命を奪う軍事費を、医療や生活支援など、命を守るための補償に回すべきだと思います。

辺野古新基地建設を最大の争点とした沖縄県議選では、建設反対派が過半数を占めました。国家間の対立を前提とした新基地の建設が本当に必要なのか、コロナ後の世界を想像しながら考えてほしいと思います。(編集委員 松下光人)